

解説

第5学年（体育科保健領域）保健学習「どうすれば人を助けようと思う勇気がわいてくるか」授業者：お茶の水女子大学附属小学校 養護教諭 江部 紀美子

「てつがく対話」を取り入れたコンピテンシーを育成する保健学習
コンピテンシー育成開発研究所 特任准教授 下島泰子

附属小学校では新教科「てつがく」の創設に2015年から4年間取り組み、2019年度からの4年間では「てつがく創造活動」を中核とする教育課程の開発に取り組んできた。対話することで思考力を育成する「てつがく対話」である。本実践は防災訓練とAEDの使い方を学んで命の大切さを学んだあとに、「どうすれば人を助けようと思う勇気がわいてくるか」という問いをたて「てつがく対話」行ったものである。命の大切さを考え、他者への思いやりを持ち、社会の一員として自分事としてとらえてもらうことがねらいだという。

本実践で育成されるコンピテンシーとしては「他者理解力」「内的統制感」「エージェンシー」が挙げられる。「他者理解力」は文字通り、他者の立場や考え方を理解する力である。他者がどのような状況にあるか理解し、さらに他者が見知らぬ人であっても助けることができるかどうか、などについて問いを繰り返すことにより、他者とどのように関わったらよいか日頃から考えることの必要性が導かれた。

「人を助ける勇気」というテーマにおいては自分の行動がある成果をもたらす可能性があるという感覚を持つ「内的統制感」の育成も見込まれる。「社会の一員としての責任ある行動」というテーマにおいては、社会をより良い方向に変えるための主体性に近い概念である「エージェンシー」の発揮が期待される。目標設定、振り返りを行うことで社会的な課題を自分事にすることが可能である。本実践は、防災訓練という健康安全・体育的行事に留まらない実践である。